



「臨床運動学」

中村隆一・斎藤宏著

「基礎運動学」が昭和51年に出版され、本年54年に我々セラピスト待望の書であった「臨床運動学」が世に出された。「基礎運動学」は人間の正常な運動についての書であったのに対し、「臨床運動学」は疾患によって生ずる運動機能障害、正常運動からの逸脱、疾患の特異性などを明らかにする目的にそって述べられた書である。同名のBrunnstromの著書とは内容的に全く異なり、運動分析、反射と反応、随意運動、不随意運動、姿勢、歩行などのとらえ方がそれぞれの項に幅広くかつ深い内容で記載されている。

本書の特徴は多数の諸家の研究結果の引用もさることながら、著者らの膨大なオリジナルな研究結果が挿入され、さらにそのオリジナルが次から次へと系統立って展開され、しかもそれが臨床および研究に如何につながってゆくかというところにある。本書は臨床運動学の立

場から述べられていると同時に運動学研究という立場からもまとめられており、参考文献は他の著書にはみられない500以上の文献にも及んでいることも注目に値する。

「基礎運動学」と「臨床運動学」を併せて熟読すると著者の運動学に対する接し方、とらえ方、考え方が十分に理解でき、運動学が学問大系化されつつある科学として成就し、さらに発展してゆくことが感じられる。

「臨床運動学」は「基礎運動学」と同様に我々セラピストにとって最良の書であると同時に必読の書であることはまちがいない。

(B5, 頁217, 医歯薬出版, ¥3500, 1979)

(国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院

理学療法士 柳沢 健)